



The Supporters Times

サポーターズタイムズ



衆議院議員 秋葉賢也 政策・活動レポート

大震災の記憶や教訓を次世代へ ～防災・減災教育の充実を～



大臣就任後、沿岸部の現場を巡る中で、大変印象に残っているのが、各地に作られた伝承館です。実際に見させていただくと、それぞれ、様々な工夫を凝らして、あの震災の真実を伝えようと努力されており、大変心を動かされるものがあります。

時間の関係もあり、これまでに視察したものは一部にとどまりますが、その中で印象に残ったものをいくつかご紹介したいと思います。

岩手県釜石市の「いのちをつなぐ未来館」では、鶴住居地区防災センターに避難された住民の方々が、160名以上犠牲になった一方で、2階の天井わずか約15cmの隙間で34人の命が助かったという悲劇

を正面から伝えていることが、深く心に残りました。また、昭和・チリ地震を経て、「てんでんこ」の教えで防災教育がしっかりなされて、子供たち一人一人の判断で逃げて助かったというお話も伺いました。事前の訓練が実を結んだ好例です。こうした教訓を語り部の方々が、修学旅行などの機会に伝えて、受け継いでいくことが重要であると再認識いたしました。

10月1日に南三陸町にグランドオープンした「南三陸311メモリアル」では、語り部の皆さんが、震災の命がけの経験をお話いただく中で、私たちも一緒に考えさせられるような構成になっており、本当に涙がでてきました。この施設と、さんさん商店街と復興祈念公園が一体となって、来訪される方々に向けて、震災の教訓を発信する拠点になっていくことを期待しています。

福島県双葉町の「東日本大震災・原子力災害伝承館」では、津波で変形した消防車など、震災当時の様子がタイムカプセルのように保存されているのを拝見し、避難された皆様のご苦勞を映像で説明を受けました。また、福島県においては、震災関連死の方が2333人と、震災そのものの死者1614人を大きく上回るという現実を改めて認識し、震災後の適切な対応の重要性とともに、わが国として、この複合災害の教訓や知見を、後世や世界に向けて発信していく責務がある、と感じたところです。

震災の伝承に関する取組は、地域が主体となって、地域に根ざした形で進めていただく必要がありますが、現場で努力されている語り部の皆様などに対しては、私としても、心から感謝したいと思っています。復興庁としても、震災の教訓が多くの人に伝わるよう、情報発信をはじめ、連携して取り組んでまいります。皆さんにも各地の伝承館に、是非一度足を運んでみて頂きたいと思っております。

復興大臣
福島原災事故
再生総括担当

秋葉賢也

確かな実現力! 秋葉賢也は走り続けます!!

…フラッシュ…

復興相が福島、三春視察



秋葉賢也復興相は4日、福島、三春両市町で、研究機関の復興に向けた取り組みを視察した。視察後の報道陣の取材に「（浪江町に新設される）福島国際研究教育機構を充実させるためには、既存の研究、医療機関との連携が不可欠」との認識を示した＝写真。

三春町の県環境創造センターでは、県や国立環境研究所、日本原子力研究開発機構の担当者から、森林の放射性セシウムの状況や除去土壌の有効利用、山菜の放射線量低減方法の研究などについて説明を受けた。福島市の福島大では農林水産業やロボット、福島医大ではがん治療などの研究内容を確認した。



◀ 福島民友 10月5日 2面より

風評防止のための東電の取り組み

東京電力HDは「海水で薄めたALPS処理水」の環境下で、ヒラメやアワビなどの海洋生物の飼育試験を実施しています。その育成状況と体内の放射性物質濃度を調べることで、安全性の確認や風評防止につなげる考えだそうです。

10月中にアワビの稚貝約800個、来年にはアオサやホンダワラなどの海藻の飼育も本格的に始め、11月末以降ヒラメとアワビの身や体液のトリチウム濃度を公表し、来年3月にその結果を評価するそうです。



風評払拭 広報策探る

復興庁 体験イベントなど議論 検討会議



風評払拭に向けた情報発信の在り方について意見を交わした検討会議

復興庁は3日、東京電力福島第1原発事故の風評払拭に向け、情報発信の在り方を探る「持続可能な復興広報を考える検討会議」の初会合を庁内で開いた。出席した有識者9人は固定化した負のイメージを変えるため、体験型のイベント開催や地元主体の情報発信などを議長の秋葉賢也復興相らに提案した。

著書に「原発事故と『食』」がある筑波大の五十嵐泰正教授（社会学）は流通現場

▶ 河北新報 10月4日 3面より

▼ 河北新報 10月14日 3面より

の現状に触れ「被災地産品と触れることがないままイメージが固定化した」と指摘。福島で釣った魚の放射能を測定するイベントを催す民間団体の活動を紹介し「興味を持ってもらうことが重要だ」とアドバイスした。

自治体広報の経験がある、PR会社「PRDES IGN JAPAN」代表の佐久間智之氏は「人に伝えるには共感とストーリーが欠かせない。地元が主体的に発信することが大切」と話した。情報の発信先を絞った効果的な広報、インバウンド（訪日客）向けのエコツアー開催といった意見も出た。

復興庁は月1回程度会議を開き、来年1月ごろに意見をとりまとめる。会議後、秋葉氏は「参考になるものも多く、実践できるものはすぐにでも取り組みたい」と述べた。

「拠点外」除染 来年度着手へ

復興相

秋葉賢也復興相は13日、東京電力福島第1原発事故に伴う帰還困難区域のうち、福島県大熊、双葉両町の特定復興再生拠点区域（復興拠点）から外れた地域の一部で2023年度、除染に先行着手することを求めた与党提言について「実現する方向で進める」と述べ、前向きな姿勢を示した。政府は復興拠点外に関し、希望者が20年代に帰還

できるよう取り組むとしている。帰還意向の確認を進めており、24年度をめどに除染を始める方針を示していた。与党提言は大熊、双葉両町にモデル地区を設け、23年度に先行着手することを政府に求めている。

秋葉氏は、避難指示が解除された大熊、双葉両町の復興拠点、立ち入り制限が続く復興拠点外を視察。復興拠点に関しては「力強く一歩を踏み出している。生活基盤の整備、産業振興の取り組みをさらに進める」と強調した。

秋葉復興大臣 活動の軌跡

福島第一原発 視察



東京電力福島第一原発を視察しました。廃炉に向けた取り組みが着実に進展していますが、来春に処理水の海洋放出を控え、丁寧な説明と風評被害を発生させないように取り組みを強化してまいります。

大熊町・双葉町 訪問



拠点区域と拠点区域外をともに視察。拠点区域は帰還や企業立地の計画等が進展、引き続き生活環境の整備や産業振興への支援が不可欠です。避難指示解除に向けた取り組みを加速して参ります。

宮城県丸森町 訪問



丸森町を訪問し、復興状況について伺いました。人手不足や除染廃棄物の問題、移転元地の活用、海底のガレキ処理など、11年経ってもまだまだ課題やニーズがあり、経年したからこそ浮かび上がる新たな課題があることを再認識しました。

ジブリパーク 愛・地球博記念公園

11/1 オープン



宮崎 駿のジブリの世界を心から愛し、県議時代から提唱していた壮大な「ジブリワールド」構想。2017年には『ジブリワールド構想』(KKベストセラーズ)を出版し、東北復興の起爆剤にしたいと提言。愛知県で開園したジブリパークには、大きなアトラクションや乗り物はありませんが、映画の主人公になったような気分作品の世界を体感することができます！

TOPIC

マイナンバーカードと 保険証の一体化 2024年中に実現

登録すればマイナンバーカードを健康保険証として利用できる「マイナ保険証」の制度は、昨年3月からすでに始まっています。転職や就職、退職などのたびに保険証を切り替えなくてはなりません、それが不要になります。また、マイナ保険証には薬の処方箋なども記録できるため利便性が高まります。



現地現場主義

東北方面隊、創隊62周年記念行事に出席



東日本大震災の時には、東北方面総監の指揮下に、初めて3自衛隊による統合部隊が編成され、自衛隊の災害派遣活動の司令部としてご活躍頂きました。昼夜を問わず最前線で人命救助活動などにご尽力頂いた隊員の皆さんに、改めて敬意と感謝を表します。

東松島市・気仙沼市・石巻市を訪問



それぞれの復興祈念公園にて献花・黙祷し、伝承館を視察し、近況や課題を伺いました。被災地選出の大臣として、市町村と密に連携しながら、残された課題の解決に取り組んでまいります。

道の駅「さんさん南三陸」グランドオープン祈念式典に出席



2017年に本開業した「さんさん商店街」と新たに完成した震災伝承施設である「南三陸311メモリアル」とが一体となって、そこにコンセプトである「交流」「記憶の伝承」「感謝」が発信されること

になります。たくさんの方々実際に訪れて、震災の経験や記憶に触れ、海や山の幸を楽しみ、新たな交流が創造されていくことを願っています。



秋葉賢也
事務所

www.akiba21.net

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈4-17-16
Tel 022(375)4477 Fax 022(375)0057
購読料 年額10,000円 編集 (株)アクトジャパン

タウンミーティング

(国政報告会)

11月22日(火) 19:00 若林区 今泉公会堂
(今泉2-9-71)

11月25日(金) 19:00 泉区 長命ヶ丘市民センター
(長命ヶ丘2-14-15)

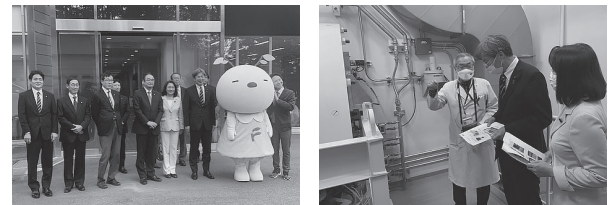
※感染予防対策等に留意して実施します。

ジブリパーク内覧

秋葉大臣が『ジブリワールド構想』を上梓し、東北復興のために仙台に創りたいと提言したのは2017年3月でした。11月から愛知県に「ジブリパーク」が開園します!大村知事のお招きで内覧してきましたが素晴らしいですね。是非、被災地の子供たちを招待頂こうお願いしてきましたが、やはり仙台に欲しかったですね!



福島大学、福島県立医科大学、福島県環境創造センターを訪問



各所で研究開発や人材育成、サイクロトロンセンター設備や抗体医薬品開発などの研究内容についてご説明頂きました。

ホームページ / Facebook / Twitter / Youtube / Instagram /



~ kenya's PLOFILE ~

- 昭和37年7月3日宮城県丸森町生まれ。寅年・蟹座・A型・180cm・70kg。
- 角田高校を経て、中央大学法学部卒業、東北大学大学院法学研究科博士課程前期修了(法学修士)、同法学研究科博士課程後期満期退学。
- (助)松下政経塾卒塾(第9期生 宮城県初)を経て、宮城県議会議員(3期)、総務大臣政務官、厚生労働副大臣および復興副大臣、衆議院環境委員長、内閣総理大臣補佐官などを務める。現在、衆議院議員(7期連続当選)、復興大臣・福島原発事故再生総括担当。
- 母校の中央大学商議員や保護司のほか、東北医科薬科大学講師、宮城大学講師、仙台青葉学院短期大学講師なども務める。

※ お願い 本紙「サポーターズタイムズ」を是非ご購読ください
⇒ お申込みは仙台事務所までお電話を !!

ハガキや切手、コピー用紙などを、是非、カンパ下さい!!